

家事に関する意識調査(第2報)－18歳以上の子どもを持つ母親の意識－  
○神部順子(貞静学園保育専門学校), 長嶋雲兵(通産省工業技術院物質工学技術研究所)

目的 本研究では, 主な家事の担い手である主婦を対象に, 日常的な家事行動が主婦にとってどういう意味を持つかという, 家事行動に対する家事従事者の意識を統計的に解析することを目的とする。なお, 第2報では第1報の予備調査の結果をふまえ, 専門学校に通う子どもを持つ母親108名分の調査結果を報告する。

方法 主婦らの家事に対する印象をみるためにアンケートによるSD法を行うこととした。家事行動に関する質問は, 7種類とし, 15の形容詞対を用い, それぞれの対に関して7段階で評価をすることにした。データを因子分析法で解析することにより, 独立な意味を持つ形容詞対のグループ(因子軸)をいくつか抽出した。また, 仕事の有無や末子の年齢などによってグループ分けをし, 判別分析およびグループ間の相関もみていった。

結果 全体を通してみると家事に対して第1因子において主体的に取り組んでいる様子がうかがえる。しかし, それぞれの質問によって第2因子は異なっており, 家事について全体の意識を問うのではなく, 個々の家事項目で質問することは意味があると理解した。また, 判別分析により, 多くの質問において末子の年齢よりも主婦以外の仕事の有無が家事に対する意識を形成することに影響があることが分かった。